

# 「兵庫まちづくりプラットフォーム」

## 但馬フォーラム『まちづくりと市町合併』 記録

日時: 2005年3月30日(水) 18:09~20:12

会場: 但馬長寿の郷(八鹿町) 研修棟2階第3・4研修室

参加者数: 19名

司会は NPO 法人神戸まちづくり研究所の野崎隆一事務局長が務めた。

年度末のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。神戸まちづくり研究所事務局長の野崎です。今日はどういふ集まりかが分かりにくいと思います。我々も、どういふ話になるのかは予想できないところもかなりあるのですが、そこはご容赦いただいお付き合い願いたいと思います。最初にひょうごボランティアプラザ所長で神戸まちづくり研究所前理事長の小森所長から挨拶をお願いします。



### 1. 開会の挨拶(小森星児:ひょうごボランティアプラザ所長)



ひょうごボランティアプラザが3年前にオープンした時に、行政とNPOが協働して事業するような新しい企画として「行政・NPO 協働事業助成」を最初の事業として始めました。この事業は最初の1年目が30万円、2年目に60万円、3年目に100万円という、3年間にわたって支援していくという大変ユニークな企画です。しかも毎年、その度に審査があり、次へ進んでいくという仕組みです。今日のフォーラムは、その事業の中の一つのイベントですが、県内各地で行って

いる兵庫まちづくりプラットフォーム事業の一部です。すでに但馬、播磨、丹波、淡路などいろいろなところでやりました。ぜひ南但馬でやってほしいとお願いしていましたところ、こういう大変迷惑な時に開催することになり申し訳なく思っていますが、スポンサーとしては大変ありがたく思っています。

兵庫まちづくりプラットフォームというのは、関係あるいろいろな方々が自由に議論し、これをきっかけにいろいろな形でのパートナーシップを組んでいこうというものです。今日はそういう意味では、人数は少ないものの、密度の高いお話をしていただき、来年度以降、いろいろな形で発展していくことが望ましいと思っています。実はプラザでは、NPOなどが新しい事業に着手するための様々な支援策を考えており、この4月から新しい制度を実施することになりました。後で時間があれば紹介させていただきたいと思っています。

まちづくりプラットフォームを、但馬で開催するのは3回目になります。最初が大屋町での「田舎暮らし」、2回目は豊岡市での「中心市街地活性化」をテーマとして開催しました。今日はタイムリーと言いますか、明後日に新市が生まれるところもたくさんある中での「まちづくりと市町合併」というテーマです。この発題の趣旨について、まちづくり研究所理事の小林から説明させていただきます。

### 2. 趣旨説明(小林郁雄:神戸まちづくり研究所理事)

兵庫まちづくりプラットフォームでは、各地のまちづくりがどういふ形で進んでいて、今どうなっているのかということに基づいて、これからどういふ方がいいのかということをお話し合ってきました。

但馬でも、新しく合併する豊岡市や朝来市、既に合併した養父市があります。少し隣の篠山市は5年前に合

併して、今度は丹波市ができます。私は生野町の「地域づくり生野塾」のお手伝いをして 7~8 年ぐらいになりますが、それぞれの地域でまちづくりをしている人たちにしてみれば、ふってわいたような形で行政体が変わります。それに併せて、今やっていることは一体どうなるのだろうかということについて、かなりの戸惑いがあります。その一方で、5 千人のまちが 1 万数千人や 2 万人のまちになることで、マーケットと言うか、いろいろな付き合いの幅が広がるだろうということも当然あります。たとえば生野で言うと、鉾山の町の口銀谷の街並みの会員たちは、和田山の竹田の古い街並みの人と同じ行政体に属するというので、もっと親密な関係が取れるということもあるわけです。



合併という中で、新しい関係づくりをどのようにしていけばいいかについてはあまり聞きませんので、新しい行政体になった時に、それぞれの地域でやってきたことがどういう展開になるのかということ、出石町も城崎町も豊岡市になるわけですから、是非積極的にお話いただきたいと思います。私は基本的には、合併しようがしまいが、その地域の人たちがやっていることにとっては大した影響は無いだろうと思っていますが、せっかく新しい行政体になっていくという機会をチャンスととらえて、地域でどういう対応をするのかという観点でお話していただきたいということでテーマを設定しています。篠山市は大先輩ですし、養父市は 1 年近く経っていますので、これから合併される人たちに是非経験をお伝えいただければと思います。

初対面の人たちが集まっていますので、ウォーミングアップを兼ねて、簡単に自己紹介と今日のテーマに関して一言お話いただければと思います。それから後はフリーにやっていきます。

### 3. 自己紹介

青木志保(明石高専 / 相生市出身)

明石高専の建築学科の青木志保です。まちづくりについては基本的なことも問題点もあまり理解していなくて、今日は発言や提案は何もできませんが、少しでもこれから勉強することや研究していくことについての材料になるように吸収して帰りたいと思っています。



渡海大輔(明石高専 / 神戸市垂水区在住)

同じく明石高専の建築学科の渡海大輔です。僕も、まちづくりなどの勉強を始めたばかりでよく分からないのですが、市町合併という特殊な状態においてまちづくりがどのように行われていくのかに興味を持っています。いろいろな方の話を聞いて少しでも勉強したいと思います。

文山明秀(明石高専 / 加古川市出身)

同じく明石高専の建築学科 4 年生の文山明秀です。まちづくりと市町合併ということですが、ほとんど知識も無く何も分からないままなので、できるだけ吸収させていただきたいと思っています。

水田悠也(明石高専 / 明石市出身)

同じく明石高専の建築学科の水田悠也です。まちづくりに関しては初心者なのですが、皆さんの意見を聞いて勉強させていただきたいと思っています。

元田正樹(篠山市 / NPO 法人たんばぐみ)

久しぶりに自分より若い方が来ていて、すごく嬉しいです。NPO 法人たんばぐみの事務局長補佐と情報部門の事業リーダーをやらせていただいている元田です。まちづくりはある程度は僕なりに言えるのですが、市町合

併はつっこまると他と比較して愚痴が出るかもしれませんが、あまりつっこまないで下さい。

上坂卓雄(出石町)

出石町の上坂です。まちづくりは出石の観光の最初から関わっていて20年ぐらいになります。今日



お来しのコー・プランの皆さんにいろいろなことを教えていただきました。昭和60年代の初めの頃に、まちづくりは住民が主体になって専門家から教えてもらいながら行政と一緒にやっていくもので、とにかく住民が主体にならなければいけないことをとことん教えてもらいました。

出石のまちは、今から30年ぐらい前までは観光客が一人も来ませんでした。そばという非常にいいものがあった、これをなんとかかしたい。明治に壊してしまった城跡に出石のシンボルをつくりたいと、先輩達と一生懸命やることで、ぼちぼちと観光客も来るようになりました。もちろんそばは非常においしく、まちそのものの歴史と街並みが良い。私自身、最初は街並みの良さが分かりませんでした。立派な建物やすばらしい自然も無いところに大勢の人が来て、非常にいいまちだと言ってくれます。それに気を良くして、「出石城下町を活かす会」をつくり、現在までに至っています。今は顧問の立場ですが、我々が中心となって住民主導でやりましたから、他の観光協会から比べると、印象が特殊だと思います。そしてお金をつくって財源を持ってやりました。ここ5年ぐらいになりますが、観光を主体にした「出石まちづくり公社」をつくり、多くの町民から出資していただき3%の配当を続けています。このまちづくり公社を中心にして、今後もまちづくりをやっていきたいという気持ちです。

市町村合併については、しなくては仕方がないと思っていますが、やはりまちづくりは自分たちの住んでいるまちですから、住民が主体になって良くしていくべきだと思います。ただそこで、後継者をどうするのだという問題があります。我々の仲間がつくった会ですから、どうしても60代、70代のメンバーになっています。いつかは滅んでしまうのではないかという思いを持ちながら、後継者づくりをやりました。観光協会にしてもそうです。その点で非常に嬉しかったのが、この間の「出石一夜城」です。これは商工会青年部が中心になって、1年がかりで本当に一生懸命にやりました。まちを挙げての築城400年という大きな事業の中で、若者の企画として進めていたのですが、台風災害で中止になってしまいました。行政自身が3月中旬以降は新市への移動で関わってくれない非常に厳しい中で、青年部の若者たちがいろいろと企画して、子どもたちの「子ども大名行列」も出しました。大勢の人たちに呼びかけて、20~30団体ぐらいに参加してもらいました。近隣のまちからも青年部が応援に来て、3月26~27の2日間にやりました。そういうことをやってくれたことが非常に嬉しかった。ですから、とにかく市町村合併の3月31日にまでにやって、出石は元気でやるのだという「のろし」をあげたいという若者たちの願いが最後に実りました。

綿貫祥一(日高町)

日高町の綿貫です。まちづくりはハードとソフトと両方あると思うのですが、江原駅の東側の区画整備に合わせて街並みを統一した景観でつくりあげていこうと、それぞれ権利者の皆さんの協力をいただき、神鍋高原の玄関にふさわしい高原風の街並みが狭い範囲ですがハードとしてはできあがっています。これをきっかけにして、周辺に何がしかのエネルギーが伝わっていけばという思いがあったのですが、あまり期待したほどではありませんでした。そういう中で、まちづくり支援事業のアドバイス派遣で野崎先生にお越しいただき、区画整備の範囲内で構成していたまちづくり委員会から、区画整備区域以外の皆さんにも一緒にまちづくりを進めていきましょ

と呼びかけてきました。行政区が一つではなく、今まであまり関わりがないところで一緒にやることの難しさもありましたが、いろいろ楽しいことをする中で、ようやくお互いに気心が知れて、エネルギーとして新しいまちをつくってこうということになりかけている途中経過だと思っています。

そこへ合併ということが迫ってきたわけです。一つの大きな市になった時に、どこか 1 ヶ所に集中してしまいがちになるのではないかと。やはり合併前の町にも中心があつてしかるべきだということで、合併までに日高町の玄関としてのまちづくりについて、一定の方向付けをしようとしています。新しい市になってからも継続してまちづくりを進めていけるようにということで、ちょっと焦っていますが、何とかできるのではないかとと思っています。行政と商工会も、中心市街地化事業で駅を中心にいろいろなことをやってくれていますので、一定の位置づけをするために、先生のアドバイスをいただきながら活動を進めているという状態です。

伊藤静雄(日高町)

日高町の江原駅東まちづくりの副会長の伊藤です。駅前地区の日吉区の区長もしています。先だっては、出石の「銀杏の湯」にちょっと行く用があり、たんたんトンネルを歩いて行きましたら、一夜城がありました。その時は幕が下りておいてまして、26～27日にライトアップすると書いてありました。後日28日も行きて、非常に活気のある出石のまちを見せていただきました。2回行きましたが、かなりの人が来られていて、羨ましいところです。

太田則之(和田山町)

城下町の和田山町の竹田に住んでいる太田です。生野のまちや出石のまちに何とか近づこうと少しずつまちづくりをやりかけのところ。去年から竹田駅の一室の空き部屋を利用して芸術、ギャラリーのようなことを毎月呼びかけています。今日は良い会に参加できたと思って喜んでます。

中尾康彦(八鹿町)

地元の養父市の八鹿町に住んでいます中尾です。京口というところのまちづくり協議会のアドバイザーをやらせていただいています。いろいろなことをやっていますが、街並み探偵団ということであらうしています。

八木雅夫(明石高専)

明石高専の八木です。今日は4名の学生が参加させていただきましたありがとうございます。朝から街並みのまちづくり視察で忙しくて、八鹿から来ています。最初に、加古川の本町のまちづくり委員会へ行って、それから生野のまちづくり工房へ出かけて、竹田の街中を抜け、豊岡の街中の景観資源をまち歩きで調べてから出石で皿そばを食べてきました。加古川から但馬総合コースと言うのですか、そういうのを経験して参りました。そういう中で皆さんのご意見を伺いながら勉強させていただきたいと思ひます。

梅谷光太郎(豊岡市)

豊岡の梅谷です。私がまちづくりに関わったのは、平成6年に行われた但馬の祭典で、その準備で平成3年から実行委員会に入りました。それがまちづくりとの最初の関わりです。それ以降、県庁の若手政策研究会での都市と農村の交流というテーマの研究をしたり、豊岡にある但馬ふるさとづくり協会に2年、同じく但馬観光連盟の次長を2年したり、観光面やイベント面、あるいは講座などを通じてふるさとづくりの取り組みをしてきました。

それが高じて県を辞めてからは、太田さんと環境関係のNPOで活動させていただきました。中尾さんと一緒に、痴呆性の高齢者のグループホームを開こうとNPOダーナを設立して、4月で3年になりますが、おかげさまで大変評判良くさせていただいています。そうしたいろいろなまちづくりの活動を、最初は一生懸命勉強する立場から、今度はそれを実際に実践するということに進んでいます。いたるところイベントや観光キャンペーンが中心ですが、ものすごく障害者の方が多くて、グループホームを早くつくらないといけないのではないかと中尾さんは言われています。本当に需要が多いのですが、やはり足りないのです。

最後に、せっかく若い子がいるので言いますと、私のまちづくりのモットーは、「このまちに生まれてよかった、

このまちに住んでよかった」と、このまちの人が言えるようなまちをつくりたい



ということです。それを一生懸命やりたい。建築という観点から、但馬地区は去年の10月に大水害に見舞われて大きな宿題を背負いました。丸山川があれだけ脆く、あるいは丸山川の水系もおびただしい水が溢れて、泥が出て、まちを台無しにしました。その災害対策、防災対策をきちんとしないといけないというすごく大きな宿題ができました。これこそ僕はまちづくりの一つとして取り組まないといけないと思うし、合併という観点からすれば、特に北但は竹野町、城崎町、豊岡市、日高町、出石町、但東町の1市5町が明後日の4月1日に一緒になります。この6自治体に大きな被害が出ています。もちろん、和田山町や八鹿町の辺もすごい被害を受けていますが、豊岡市のこれからの大きな課題、あるいは養父市、朝来市、それぞれのまちの課題ということになるので、一緒に是非考えてほしいという気がします。僕のもう一つのモットーは、「自分たちのまちは自分たちでつくろう」ということです。上坂さんが言われたように、行政頼みでは駄目、それから特定のところに寄りかかっている駄目で、自分たちがこんな町にしたいというところを目指して、その辺も一緒に考えてほしいと思っています。

野崎瑠美(遊空間工房)

司会のまちづくり研究所事務局長の野崎と一緒に設計事務所遊空間工房をやっている野崎です。私は普段は建築の設計が主なのですが、去年ぐらいから時々、日高町や八鹿町のまちづくり協議会に参加させていただいて、地元の方と一緒にいろいろなお話やまちの課題を聞かせていただいています。

皆さんのまちが、本当に「住んで良かった。生まれて、そこに育って良かった」というまちになるように、何かお手伝いできればと思っています。先ほど、障害者のことも出てきましたが、私も障害者の方からのコレクティブハウス、一緒に住んで交流空間があって、みんなで助け合って暮らすという共同居住の集合住宅の形ですが、長田区の方からの相談を受けています。作業所等を含めた、地域と交流しながら、夜も安心して暮らせるような住まいというものを目指していきたいと思います。あちこちにそういうものの必要性があり、それはいろいろな人のネットワークの中で生まれると思いますので、学生さんもアンテナを張って勉強されたいと思っています。

松原永季(スタジオ・カタリスト)

スタジオ・カタリストの松原です。神戸で設計事務所とまちづくりコンサルタントをしています。八鹿町の岩崎と八木と新町で、まちづくりコンサルタントとして住民の方と一緒にやらせていただいています。今日はまちづくりと市町合併ということで、昨年養父市が合併した時に地元の方が大変混乱されて少し停滞していったような気がしています。そうした側面も含めて、他地区の話の聞ければと思って参加させていただきました。

今の話を聞いた中で、一つは合併する前にそれぞれの町で固有に進めてきたことがいろいろありました。それを合併前に形にしておかないといけないということで、まち協ができたり、中心市街地活性化が行われたり、合併に向けて活動が生まれたということがあります。逆に、出石町のように合併とは関係無く、ずっと前から取り組んでこられたところもあります。それぞれの地域で固有に進めてきたことがどうなるのかという視点が一つあります。もう一つは、合併しても何も変わらないという話もありますが、合併を前向きに考えて、合併によって何が可能になるのかという話も当然あると思います。中心市街地活性化の話は、町区単位でやるよりは、もう少し広い範囲で位置付けてやった方がいいのかもしれない。高齢者問題についても、きちんとしたシステムをつくってやるには、もう少し広域の行政があった方が可能になるのかもしれない。合併によってパワーが

出てくるのかという側面があると思います。もう一つは、これまでは町と町で競争しながらパワーがついてきたようなところがあるのですが、同じ自治体になった時にそれがどうなるのか。逆にもっとパワーが出てくるのか、しばんでしまうのかという話があります。話を聞いた中では、そういうところがポイントかと思います。

#### 4. 合併後のまちづくり(主催者側としての小林、小森、野崎以外の方は[発言]とした。)

##### 朝来市(朝来町、生野町、山東町、和田山町 / 2005年4月1日合併)

**小林** ずっと付き合っている生野町では、和田山と合併するというのにかなり抵抗もあるようですが、竹田とは仲良くしようという話をされています。どのような気持ちか良く分かりませんが、今のようなお話で竹田の話を少しお聞きしたいと思います。

**発言** 竹田は古い街並みを残したいということから始まっていますが、割と芸術に力を入れようという方向です。朝来町が森の美術館で先行されていますし、生野町の井筒屋さんもがんばられています。そういう中で、結構おられる芸術家の方々が仲良くされており、朝来町でやる時も竹田で宣伝してもらおうなど、お互いに協力しつつという状態が少しずつできてきています。また、新市の新しい芸術文化館を通じて、それぞれが繋がっていくのではないかと考えていますから、そういう意味では、これから合併しても非常に楽しみだと思います。

**小林** 生野町は自分たちで楽しむ芸術はいろいろとやっていますが、朝来町の芸術の森や太田さんのやられているギャラリーはプロの方が多い。そういうアーティストは、あまり市町界にとらわれずに動き回っていたら、確かにおもしろいかもしれません。

**発言** 去年、合併に先駆けて、朝来郡の芸術家のアート展をやりました。それぞれの地域から少しずつ、生野町からも陶芸の方に来ていただきました。

**小林** 神戸大学の歴史の足立先生が、「鉱石の道」ということをずっとやられています。大屋町と朝来町と生野町とが一緒になってやろうということで、2年ほど前から事務局のお手伝いをさせてもらっています。アートとは直接関係ないのですが、昔の鉱山のつながりとか、いろいろな形で当然つながっていますので、そういうことを一つずつ考えていけば、合併すればそういうことが素直にできるのではないかと思います。今までだと、隣の町のことだからそういうわけにはなかなかいきません。

**発言** 生野町や朝来町は有名な画家や芸術家が出ているのです。多分、探せばいます。唐津の中里太郎右衛門の奥さんが竹田から出ています。そういうところをつかんでいないので、せっかくのところはやはりバラバラになっています。

**野崎** つなぐためには、そういう越境する芸術家が必要です。別に有名な方でなくても、たとえば大屋町にも芸術家が住んでおられます。

##### 豊岡市(出石町、城崎町、竹野町、但東町、豊岡市、日高町 / 2005年4月1日合併)

**小林** 今日たくさん来られている豊岡市になられる出石町、日高町あたりの話に移ります。特に出石町は、城崎町の町長さんが「別に名前は豊岡で十分や、うちは城崎温泉や」と言われているわけで、多分出石町もそういう気分だろうと思うのですが。

**発言** 私のところは、やはり豊岡市になっても出石町だという意識が非常に強いのです。実は私自身の生まれが日高町で、出石町には養子に行きました。ところが出石町の連中はそれを知らずに、出石町出身だといほとんどの人が思っています。それだけ出石町に恩を売っているわけですが、出石町の連中の非常に強い郷土意識は大事にしないとイケないと思います。

明日で但馬観光連盟が解散するので、これから観光はどうなるのかという問題があります。新しい豊岡市での各地区の観光協会が連携して、広域観光を進めなければ駄目だと思います。特にこれから外国の人たちを

呼んでこようと思えば、小さな町で一生懸命やっても無理です。そういう点で、但馬や豊岡市を中心にして、兵庫県とも一緒にやっっていこうと思っていますから、市町合併は観光面でも非常に大事なことです。日高町にしても、神鍋高原の玄関のまちというイメージで観光を地域振興の中心にされています。私は最初、まちづくりの専門家、特に建築関係の人たちと話して、「観光というのは邪道だ、そんなものはあかん」と相当言われました。しかし私は、人が来て、まちが活性化して、金儲けができないと、絶対にまちづくりに一生懸命になれないと思っています。そこで変なものをしてしまえば長続きしませんから、やはりきちっとした出石らしさを出さなければいけません。そういう点では合併すれば非常におもしろい面があります。しかしそれをするのに行政頼りではいけません。行政が中心になった観光推進は非常に心配です。観光係にしても、何年かすれば替わりますし、特に町長やリーダーが替われば施策が変わります。そういう点で、その時の人が自分たちのまちは観光面でまちづくりをするのだということをしっかり持って、それを仲間で引き継いでいくことを大事にしようと思います。

**小林** それぞれの町はそれぞれで今まで通りしっかりとやった上で、合併を機会に観光面などで一緒になってやるのが大切だという話でしたが、但馬観光協会を解散するという事は、発展的にまた新しい物をつくるということですか。

**発言** 解散する理由としては、但馬が最初は4市でと言っていたのが、美方郡の関係で3市2町ということで進んでいることがあります。昔は1市18町で、19の自治体を取りまとめようと思えば但馬観光連盟のようなものが必要だったと思いますが、3市2町くらいであれば、観光関係の担当者と観光協会とが一緒にいろいろなことを計画すればいいということです。豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町の3市2町とでとりあえず調印したようですが、やはり城崎町と出石町あたりが中心になってくると思います。篠山市も4町が合併してできましたが、たとえば丹南町の丹波篠山のデカンショ祭とか、あるいは焼き物の里だとか、結局それぞれのまちが観光協会を残しています。新篠山市の観光協会が一つに、支店が四つという形になって、いまだに難しいのです。それは商工会も同じです。本店ができて支店が旧町単位に残ると、ゆるい集まりでいいので一緒にしようということを念頭に置きながらやっていかないと難しいと思います。

**発言** 商工会の合併というのは、地域づくりでは非常に大事になってきますが、豊岡市の1市5町の商工会はすぐに合併できないのです。市は商工会議所で、管轄が全然違うのです。商工会議所は国の管轄で、商工会は県なのです。ですから新豊岡市では商工会議所と商工会とでやることになると思います。そうすると、これまで商工会が中心となったまちを挙げてのイベントが結構あって、それを一本化するの非常に難しいですし、まつりの寄付集めのやり方なども難しいのです。

**小林** 今までは出石町の商工会や城崎町の商工会ということで、県の管轄である程度の連絡は取っていたけれども、豊岡市一本になれば県はもう関係無いわけですね。逆に言えば、一つの市の中でいろいろな商工会の存続が許されるのですか。

**発言** 今の町村合併も一緒だと思いますが、商工会も自主的にと言いながら、やはり徐々に合併せざるを得ない状況になってくると思います。

**発言** 人件費などは県から出るわけですから、そのことの基準がどんどん厳しくならざるを得なくなってきます。ただ、商工会議所と商工会という全く性格の違うものの一本化は難しいのです。それで今、並存ということが言われています。ですから、いろいろなしめつけの流れの中でどうすればいいのかということの研究を重ねて、おそらく3年後か5年後かを合併の目処にして、まずは5町の商工会から一緒になるのではないのでしょうか。行政の場合でも、市役所が一つで総合支所があるということですが、やはり合理化を求めてきた流れからすると、最終的に支所は支所だということになってくると思います。そこで、合併のもう一つの目的である本来の地方自治というものを住民も十分わきまえて、住民がまちづくりの中心にならないといけないということが、合併の中でますます重要になってきます。皆が自分たちのところはこうしたいという関心を持って、いろいろなこと

ができるまちは、住みよい自分たちにいいまちだと。いいところだから人が集まってくる。そういうことが無いところ、高齢化していったまちづくりを呼びかけても熱がわいてこないところへ、バランスのとれた地域にするために、行政としてどういう手当てをするのかということも重要です。行政頼りではないのですが、行政の支援によるバランスの取れた地域づくりも大事ではないかという気がします。いろいろなことを楽しみながら、心を通わせながらやっていくには、活動資金を自分たちで持ち寄って、まちづくりでも観光でもやっていこうというほどの積極性がが必要です。そうやっていくまで、なにがしかの誘い水が必要で、それを行政に頼ってはいけないのですが、合併の中ではもっと難しくなるのではないかと心配しています。

### 養父市(大屋町、関宮町、養父町、八鹿町 / 2004年4月1日合併)

発言

養父市は、昨年4月1日に合併しました。希望に満ちてというつもりでしたが、残念ながらというのが本音です。と言うのは、やはり組織が非常に変わってきたということがあります。八鹿町の本庁に4つの町から集まってきて仕事をするのですが、なかなか職場の中で上手くいかないということで、この1年間で多くの人が、特に幹部クラスの方が辞められました。また、たとえば八鹿町でしたら、今までまちづくり協議会にいろいろな助成金を出して、担当者も一生懸命だったのですが、合併とともにそういう制度が無くなってきました。つまりしわ寄せが出てきているわけです。それによって、まちづくり協議会が段々としぼんでしまうという状況もあります。もちろん地域の方が一生懸命やるのが一番良いのですが、市の援助がなければ継続できないというような具体的な面も多くあります。八鹿町も、合併前に中心市街地活性化連絡協議会をつくって、TMOをつくって一生懸命やっていたと思ったのですが、結果的には形に表れてこないというのが現実です。各町が今までやってきたイベントは各支所が引き継いでやっていますが、いろいろな観光地がありイベントの数もたくさんあります。養父市になってから、町ごとに予算が出てきて、活動が非常にやりにくくなったということと、たとえば八鹿町のことを知らない関宮町の方に、いくら八鹿の町を良くしようと言っても、なかなか理解してもらえないという状況にもなっています。これからはそういうことが段々無くなっていくだろうと思いますが、そうなるまでに何年かかるか分かりませんし、その間にしぼんでしまって、それこそ無くなってしまえば、もう1回立ち上げるのは非常に難しいだろうと思います。何とか継続しなければと、細々とやっているような状況です。唯一良かったというのは、いろいろなイベントをやる時に、町を通じてピラを出してもらおう場合に、今度は少なくとも全市に行き渡るようになったことです。他はあまり良いという話ではないのですが、そういうような状況です。

### 3回目となる市町(村)合併の解説

小森

若い人たちのために解説しますが、実は日本では3回市町村の数が減ったのです。1回目が明治の初めで、私も知らないので省略しますが、昭和20年代の終わりに2回目の市町村合併があって、大体3分の1ぐらいになりました。たとえば、但東町は3つの村が1つに、出石町も4つから1つになりました。その大きな理由は、戦後の教育改革です。中学校までは基礎的な自治体、つまり市町村が持つということになりましたが、町立中学校を維持していくためには、人口8千人ぐらいが必要です。今までの村では、小学校は自分たちでも持てましたが、中学校は持てません。財政が持ちませんので、8千人ぐらいの規模に再編成しようということで、50年前に市町村の数が全部で3千ぐらいになりました。

3回目の今度は、その3分の1の千にすることです。その大きな理由の一つは財政危機です。たくさんの職員を迎えて住民にサービスすることは難しい。人口の規模が小さければ小さいほど、コストが高つくということがあります。もう一つは、これが今の話に関係があるのですが、行政の仕事がより専門的になってきたことがあります。市であれば4つか5つの課でやっている仕事を、小さい町では一人で全部やらなければなりません。国や県から言ってくるのが、全部特定の個人にかかってきて専門的なサービスができなくなります。



合併すれば、たとえばまちづくりの専門家や商工の専門家、そういう人が腕を振ることができるのではないかということです。ところが逆に言うと、先ほど出石町の話がありましたが、そういうことを長年やってきた専門家がいますが、大豊岡市なれば出石町のことばかりにかまっていられなくなるわけです。豊岡市は確か神戸市以上、7百平方キロメートルの広さがあり、端から端に行くのに1日かかりますので、一人では仕事できません。結局それぞれの地域が合併すれば、上の方に合わせるならともかく、下の方に合わせることになります。出石町がこういうことで突出していたということ、八鹿町はこういう点に特色があったということが、何故あそこばかりに金を出すのかということになりかねないので低下しているのです。福祉でも同じことが言えます。実はこの前、このまちづくりプラットフォームを五色町で開きましたが、五色町は大変福祉に力を入れて全国でも有名です。それが洲本と合併することで、福祉が無くなるのではないかということで、合併の話がある日突然流れました。今度、また合併することになりましたが、そういうように特色のあるまちづくりがやりにくくなるのではないかという問題が先ほどからの話の中に出てきています。いろいろな個性のあるまちが一つのまちをつくるというのが本来の姿ですが、議会などは、同じ市であれば同じサービスが受けられるようにするというのに傾きがちで、なかなかそれぞれのまちが特色を出すことは難しいのです。

併せて言うと、先ほど商工会議所と商工会の話が出ました。商工会議所は、地元の産業界の人たちが自分たちでつくっている組織ですから、会費で運営するのが建前です。商工会は、行政の末端組織と言ってしまっただらおかしいのですが、多分商工会の予算の半分以上は公費ですから、町と一体となっているわけです。公費という意味では、商工会議所も国から事業に対してお金が出ていますが、市役所の下働き機関ではないと言っています。ですから、商工会議所にまちのいろいろな事業に協力しろと言っても、我々には我々のやり方があるとと言われて、そう簡単にいきません。

結局まちづくりというのは、それぞれの地域で自分のところの資源なり、あるいは自分たちのところにいる人たちにうまく働いてもらって、他には無い個性をつくっていくことなのか、あるいは市になれば全部同じようなサービスをしてほしいということになるのか、なかなか難しいのですが、その答えは非常に簡単なのです。まちづくりを行政に頼っているから横並びになるのであって、それぞれ特色のあることをやりたいという地元の人々が中心になってまちおこしをすればいいということなのです。これができるところが果たして何ヶ所あるのか。今日来られている方々は、それができる方ばかりですが、そういうリーダーもいなければ資源の開発も遅れているところでは、他に無い特色を見つけていくのはなかなか難しいと思います。出石のそばは有名ですが、40年前には2軒しかありませんでした。それをまちの産業として興していったのは地元のリーダーなのです。そういう人たちの力をどのようにして発揮させるのかというのが課題です。市町村合併で横並びになってしまって、本当に今までと同じようなことができるのかどうか。これが今の課題だろうと思います。

#### 合併に際してそれぞれの地域は

**野崎** 神戸市は合併していったから50年ぐらいになるのですが、今は逆に各区に権限をどんどん分散させようとしています。予算を区にどんどんシフトしていき、人材も区に出して、地域固有のいろいろな施策は区役所に任せていくという方向になっています。合併すれば中央集権になって地域がどうなるのかという心配や、総合支所の位置づけの問題も、少し先行してやっている大きな市の在り方が参考になるのではないのでしょうか。今の流れは逆に分権していく方向になっています。

**発言** そうだと思いますが、神戸市は一定の範囲や規模があるので可能なのだと思います。もっと小さいところでは、総合支所に一定の権限を与えて現地解決型と言っても、やはり国からの補助金の流れの情報は本庁にしか入りません。総合支所では、政策的にいろいろ提案できるための情報が入ってこないのです。住民からは総合支所へ吸い上げるけれども、吸い上げたものを総合支所の支所長に権限があるのか。支所長が

部長級で、直接、助役や市長に言っても、予算の中では、建設なら建設、農業なら農業に流れるとなると現実には難しいのです。そうするとストレートに流れる方が、むしろ合理的ではないかということになってしまいます。

合併協議会の中での新市のまちづくりの基本構想として、1市5町の新しい取り組みで、こういうまちづくりをしましょうというような抽象的なものがあります。そこから、中心の豊岡はこういうまちづくり、出石はこんなまちというように、具体的に基本計画を積み上げて認知されていくことが、今の形でできていけないかと思えます。ですから、これからの本当の肉付けが大事になるのではないかという気がします。小学生が読んでくれたのですが、EUはいろいろな歴史の違う国が一つの通貨でもって一つの連合体として存在するという作文がありました。この1市5町も、それぞれの地域の特長を活かして連帯してやっていくことに希望を持たないといけないという気がします。

**発言** 豊岡市の例をとると、山や海水浴場、スキー場もあります。産物でも、牛もあるし、海産物もいっぱいあって、円山川が流れていて、非常に豊かになるのです。その豊かさと言うか、それぞれのポテンシャルを合併によって決して損なわないという上で一緒にしようということだと思っています。

例としていいのか分かりませんが、私は立場上いろいろな役場の方とお付き合いすることがあります。日高町や出石町、あるいは生野町でもそうなのですが、若くしてすごいという人が職員としています。日高町は人口1万人を超えますが、3千人や5千人ぐらいの役場にそういう人がいると、大きな器に移してもっと生き生きとさせたほうがいいのではないかという観点もあります。合併によって、議員の数や首長が少なくなるとかという財政的なプラスもありますが、今は水道料金にしても福祉にしても一番高いところに合わすということで、今頃になって地元の新聞は騒いでいるという話なのです。

繰り返しますが、それぞれの地域にあるすばらしいものを、なんとしても守ってあげる。出石町のお城まつりや日高町のいろいろなまつりも、従来以上にやっていただくように頑張ってください。潰すとか、職員総引き揚げとか、そういうことは決してしませんと約束した上で一緒に交流するような地域にしたい。お城まつりに旧豊岡市の人がお手伝いに行ける。逆に出石町の人豊岡市のりくまつりにお手伝いに来てくれるといったような人の交流を、今年はそれぞれが動き出しているのが難しいようですが、来年以降から少しずつ積み重ねていきましょう。奇麗事のように聞こえて恐縮ですけど、やはりそこが基本だと思います。せっかく大きな市に一緒になるのだから、会う人ごとに、「頑張りましょう」「何かあったら呼んでください」「何かあったらきてください」と言いあう形で重ねていきたい。そうすれば、先ほど出ていた心配事などはかなり解消されるのではないかと思うのです。せっかく合併するので、これを活かさない手はないとずっと思っています。

**小森** 来客数そのものが、この先それほど増えるかどうか分からないという問題がありますが、それ以上にそれぞれイベントをやるのにはそれなりのお金が必要です。今までは地元のまつりだからということで、地元で集めていたものがどうなるのか。実は私は1ヶ月前から篠山市民でして、篠山でも5年前にやはり同じ問題がありました。地元のまつりだからと協力してもらっていますが、全市的なまつりになると、なかなか難しくなるという面があります。

**小林** まつりの問題とケアの問題ということで、岐阜県の山岡町が今度合併して恵那市になるのですが、全員加盟のNPOをつくってしまいました。とんでもないと言うより、すごく正しいという気がしてきたのです。恵那市に入ると、山岡町のまつりに金が出るのか。自分らでやれという話になるのであれば、最初から自分らでやろうということです。ケアの問題も自分たちでやるために、NPOでディケアセンターなどをすることにして、全村民加盟型NPOをつくってしまいました。事務局長の商工会の人が偉いのだと思いますが、そのNPOがおまつりをやったり、恵那市から委託を受けてディケアだとかやったりしています。

**小森** 実は篠山でも「ぬくもりの湯」というところが、温泉をつくって成功しています。これは指定管理者制度で、マネージャーを広島からかどこからかスカウトしてきました。ものすごく有能な人で、やはりこれからは競争

の形は変わってきます。行政の人が先頭に立って、今までのように予算書を書かせてやっているようでは勝てない。むしろ、非常に有能な人を引き抜いてマネージャーにしても、そういう新しい力で勝ち抜いていかなければいけない。行政では、とてもそのような思い切ったやり方ができません。NPO であるかどうかは別として、今後は合併と同時に指定管理者制度など、いろいろな形で進んでいくと思いますが、そこへ行政が古手の役人を据えてというようなことでは先が思いやられます。今までのしきたりにどれだけ捉われずに、これからは競争に勝ち抜かなければいけないのだとやっていくどうかにかかっていると思います。

**発言** たとえば出石町で 1 千万円のイベントがあって、半分は出石町が出し、残り半分は商工会や地元で集めていたと仮定します。新しい豊岡市になったら、行政が出していた 5 百万円は 8 掛けでということがあるかもしれませんが原則として新豊岡市が出し、残りは地元で出す。ただ、行政職員が動員される場合がありますし、実行委員会形式でやるようなイベントは、そのまちの関係者だけがやってきましたが、豊岡市や日高町などからも助っ人でどんどん行きましようとか公募してもらう。逆に日高町の神鍋マラソンで、2000 万の事業の半分を日高町が出していたとしたら、新豊岡市はやはり半分、あるいは 8 掛けで出す。マラソン大会だといろいろなスタッフが要りますが、これまではほとんど日高町の方がやっていたのを、合併した豊岡市や出石町などの新しい方々を公募してどんどん入ってもらう。そういう積み重ねということでもいいと思います。

**小森** むしろ、私はそれを変えた方が良いのではないかと思う。半分以上を豊岡市が出すというのをやめて、地元が集めたのと同額を豊岡市が出すことにして、地元がどれだけ資金を集められたかに応じて出せばいい。総額が変わらないようであれば、合併した意味は薄れるわけです。非常に厳しい財政危機に対応していくためにどうするかということですから、増やすところはもちろんありますが、やはり何かの形で削っていくことも考えなければならない。それをどうして決めるかは、今まで地元が 500 万円集めていたのを最終的に 700 万円集めたとすると、市は 1 千万円の事業だから 3 百万円でいいだろうというのではなくて、地元と同じ 7 百万円を出す。そういう形でインセンティブを与えて勝ち抜くことを考えなければなかなか難しい。

#### 出石まちづくり公社に関連して

**発言** イベントに対する助成はだんだんと減っていきます。これまでお城まつりにこれだけ出していたからと、同じだけ出してくれるのは、1 年目はあってもずっと期待しては駄目だと思います。その財源をどうするのかということですが、今は不景気だから、皆から集めるのは非常に難しい。それで、出石町の場合は 5 千万円で第 3 セクターの「出石まちづくり公社」を最初につくったのです。町と町民が半分の 2 千 5 百万円ずつを出しました。そのままでしたら、豊岡市が半分持つことになるので、市にいろいろと相談したり、指導を受けたりしないといけなくなります。ですから、9 千 8 百万円に増額しました。4 千 8 百万円は、この間の台風災害の後で気にしながら 1 株 5 万円で募集しましたら、町民ですぐいっぱいになりました。これにはびっくりしました。それと観光協会の NPO 法人化を申請しています。観光協会が今のままでは任意団体で何もできません。やはり法人化して財産を持てるようにしようということで、行政の持っている出石まちづくり公社の株を少し観光協会に譲ることで、出石まちづくり公社の利益金を観光協会の事業に出すという方向を今考えています。最近は少し景気が悪いので利益が少ないのですが、利益を配当すると同時に、まちづくりの関係でこれまでから行政に何千万円かの寄付をしていますから、その分を事業に出せます。

**小林** まちづくり公社というのは財団ですか。法人格はどうなっていますか。任意団体の観光協会が NPO 法人格を取るのですね。

**発言** 出石まちづくり公社は株式会社です。それで今、市からの出資の 2 千 5 百万円を、25 パーセント以下の 2 千万円にしようとしています。その 2 千万円が豊岡市へ財産として行くわけです。そういうものをつくっていかないとなかなか大変だろうし、そして観光協会そのものも NPO 法人にすることによって、寄付金を集める

こともできるようになります。任意団体だと、それができません。そういうことをやることで力が出てきます。今の出石まちづくり公社にしても株主がすごく増えて、それだけの町民が大勢参加していますから、市に対して何を提案しても力強いし、観光協会そのものも関係者だけでなしに一般町民がたくさんいますからやりやすくなります。そういうふうな力を持って、そして行政と一緒にやっていこうとしないと、これはたくさん出してくれと言っていると、だんだん減らされます。そのための合併で、補助金なんかもだんだん無くなると思います。

発言 それはやはり、観光やイベントは目に見えるものです。いきなりということはないと思いますので、ある程度の3年から5年のスパンで残さないといけない。

発言 1市5町の中では、出石町はやはり城下町で古い街並みという共通のイメージがあります。城崎町も温泉ということでそうだと思うのです。日高町は神鍋高原というイメージですが、まち全体が神鍋高原ということで共通認識になるかと言うとなかなか難しい。それは面積が広くて、生活の仕組みが違うので、一体感というのはなかなか持ちにくいのです。まちづくりの中で、共通の「住み良い」とか「安全」とかは基本的なことですが、それをイメージとして一緒にやりましょうということに結び付けていくということに、どこから手をつけていけばいいのかがなかなか難しいところがあります。

小林 玄関口という話がありますが、合併を期に、神鍋と江原のまちとは違うのだから、違うと思って分けてやれば良いと思います。町長は一体感を出すとか考えないといけませんが、そう考えなくてもいいわけですね。

発言 やはりイメージとしては、歴史的にも国府庁があって古い国分寺があったという古の住みよい町だということもあるのです。そのことで、出石町のまちのエネルギーを、小さい村の中から一番身近なところの共通項で徐々に広げていこうかと思っているのです。

野崎 広がることで、発想がもうちょっと自由になります。出石を利用して、玄関口は江原駅なのだということで、高齢者はバスで長距離を走るよりはJRを使った方が楽ですというような話でうまくやれば良い。

発言 村岡に抜ける蘇武トンネルができてからは、湯村温泉に行くのに浜坂駅からよりも江原駅から行く方が一番ロケーションもいいし、時間的にもいいということで、それなりに乗降客も増えています。そうしたことも一つの特徴としてやっていかなければいけない。日高町は50年前の合併も経験しており、今までの合併は周りから寄ってきたという意識がありましたが、今度初めて、豊岡へ中心がいつてしまっただけで外れる気分というのがあります。やはり豊岡の皆さんが合併で思っている部分と周辺のまちの合併に対する思いにずれがあります。

## 観光と災害

発言 但馬観光連盟は無くなりますが、連携してとにかく観光でということが絶対だと思います。この前の災害の時に思ったのですが、出石町で20年がんばってきて観光客も来てくれるようになったのですが、いまだに観光を主幹産業として見てくれません。この大変な時に、ボランティアが大勢入っている時に観光と言うというのがあります。こういう時だからこそ観光で、そばは大丈夫だとどんどん宣伝しろと言うのですが、行政もいろいろな人たちも観光は一つの遊び感覚なのです。大変な時に観光だなんて不謹慎だという意識があります。観光は大事だという意識ができたのは、おそらく但馬では城崎町だけで、他は全然無いでしょう。

発言 豊岡市になった時にその感覚が、観光や基幹産業で豊岡市の市民の人たちが、どう考えてくれるのかがちょっと不安です。

小森 ボランティアを送り込んだ側として言いますが、出石町へは名前で行った人が多いのです。やはりまちというのは、あのまちを潰してはいけない、あのまちの人が困っているということが第一です。もしそばが無ければ、観光バスが行かなければ、多分出石町というまちは知られていなくて、豊岡市の近くにも困っているところがあるらしいということだけだったと思います。しかし、今回は出石町が大変だということだけで、随分たくさんの方が行ってくれました。そういう点で出石町を外から見ると、出石町のためにと思っている人は、やはり

出石町に行っていていい思い出を持っている人なのです。それは地元の人に是非宣伝してほしいと思います。

**発言** 町民も、そういうことを後で感じてきています。観光客が急激に落ちて、大変だということは分かっているのです。阪神淡路大震災の直後に、有馬温泉の人が言っていました。大震災で神戸がひどいことになったけれども、有馬はひどいことになっているのを言うなと抑えたそうです。当時の報道は、やはり悲惨なすごいところを宣伝する方が報道したような感じがするのです。ですから神戸は 10 年経っても、大災害のイメージがまだ皆に残っています。但馬の災害でも、水害でひどいことになっていて、まだ出石も豊岡もめちゃくちゃだというイメージがまだあります。強調し過ぎるのです。この前、兵庫県が災害と観光ということで新潟と東京の方を呼んで、マスコミの人にも集まってもらいました。その場で、災害報道をもっと考えてほしいと私も言いました。合併だと言う時に、豊岡の人たちが観光をどの程度一生懸命捉えているのか。確かに、鞆産業は主幹産業だというのは非常に強いと思います。観光で人を呼んでこようという感覚とは少し違うのです。私は、これからのまちづくりは観光を非常に強い基幹産業にもっていくべきだと思うのです。

### まちづくり初動期への支援

**発言** まちづくりですごく成熟されているところは、もしかすると合併が次のステップに続くきっかけになる可能性があるのではないかと思いました。今、私が支援しているのは、三年から五年目のところ。五年目のところでようやく自立の形が見えてきて、三年目、四年目のところはもう少しいろいろやっていかないといけない段階だと私自身は思っています。養父市の合併の時に、そういう初動期の段階のところ、自立までにはたどりつけていないところが、その合併によって被る影響が結構大きかったのではないかと思っています。元々兵庫県下では、特にまちづくりの仕組みは兵庫県が中心でやられていましたが、合併に伴って市町にその役割を渡していくことになっているのだと思います。そうすると、今まで県主導でやっていた各地のまちづくりの初動期の動きが少なくなってくるのではないか。おそらく住民主体のまちづくりという感覚に成熟していない自治体の中では、初動期のまちづくりは起きにくいのではないかというのが、実際の印象として感じているところです。もちろんそういうところでも、やれるところはやっていけるとは思いますが、何かきっかけが無いとやれないところは果たしてどうなっていくのかと思っています。

**発言** 住民が中心となってまちづくりを展開している様々なところがありますが、それは合併を前提とした交流型の方策ではないかと思います。要するに、各地域でまちづくりを頑張っているのに、合併が与えてくれるものが全然見えてきません。私たちが見出さなければいけないのかもしれないと思いますが、そのあたりが理解できていないというところです。

**発言** 僕は丹波市に住んでいて、篠山市と丹波市と京都丹波を合わせて丹波ということで活動しています。少し口が悪いのですが、皆さんは後ろ向きではないでしょうか。目先の 1 年後、2 年後、3 年後ぐらいまでのことしか考えていないようにしか聞こえないのです。皆で合併しようというのは、将来の 10 年後、30 年後、40 年後に、自分たちがどうしたいのかということのために、行政から離れて少しは民間が主導になってやろうということではないのでしょうか。僕らはそう思って、篠山だろうが、氷上だろうが、丹波市だろうが関係無く、一つの兵庫県という感じで、それが京都府でも同じ人間だからいいという感じでやっています。合併によるデメリットとメリットがありますが、それは自分たちがなりたいものに向かうために仕方が無いリスクなのです。リスクを負わずにメリットだけを求めることは絶対無理です。僕らは、デメリットもあり、メリットもあるものだと思います。

**野崎** なりたいものになるための共通するものを、もう少し具体的に言ってもらった方がいいと思います。「広域丹波」というようなイメージを持っておられるのですか。

**発言** 今は田舎でも、都会のように隣同士の会話が少なくなっています。昔は、手助けし合いました。あのおばあちゃん、最近どうしてるかという昔ながらのことが少なくなってきました。それを取り戻そうというのが僕ら

の一つの理念です。その目標に向かう中でも、自分たちのことも考えながらやっています。

少し関係無いのですが、若い方々がいるので言わせてください。僕もこの仕事をしているので、皆さんが言っていることは分かりますが、僕らの年代からすれば、そういうふうに型にはめないでくださいと言いたいのです。地域を出て行くという、最先端に行くという人間は誰かと言うと若者なのです。隣の地域ということは関係無く、ただあそこがおもしろいから行く。要は若い人は行動力が一番あるのです。それに対して、この町はこうだからと教えていけば、型にはまって動けなくなるのです。実際にたんばぐみの事務局長は 31 才ですし、僕は 23 才です。そうやって型にはめられて段々動けなくなってきているのです。それが嫌だから、僕らは兵庫県全部でやると言い出したのです。そうすると、型にはめられることはなくなるのです。型にはまらないその上を行けば、小さいことは言っておれませんから、合併の前にそれを探してほしいのです。

**発言** 先ほど言ったことが誤解を与えているかもしれないのですが、今僕が支援しているところを具体的に言うと、24 世帯で 70 人ぐらいの村です。もう一つは 2 百世帯ぐらいの古い城下町の村です。極端に言えば、合併はその人たちにとってはどうでもいいことで、その村の中で自立を図っていくということがあって、村に人を呼び寄せて活性化していけばというような話です。その中で、ある程度支援があったものがやりにくくなったとか、行政との関係の仕方がすごく難しくなったとか、やりたいことは自由にやればいいと思いますが、そういう初動期の種まきのような仕組みが大きくなるとやりにくいのではないかという気がしたということです。

**発言** 僕らも、たった 30 人の集落を支援しています。NPO 法人で米を売っているのですが、今日ラジオ大阪に行ってきて、その米が今度のプレゼントになります。大きくなれば、行政を当てにしないことは誰だって分かっています。その初動期でいかに火をつけるかで、駄目なことを言うと火がつかないのです。マイナスのことを言えば、萎えてしまって動けないのです。ですから、いつも抽象的に、もっと大きなものを見ましようと言っています。成功例もあるし、失敗例もある。あなたはどちらなのですかという投げかけをするのです。

**発言** それは分かっていますが、勝ち負けの論理という仕組みの中だけでは、村とかの存続はなかなか難しいと思います。まちが育っていく育ち方についてもいろいろなバリエーションがあります。特に集落崩壊だとか、村や町の自治機能が無くなっていきそうなところすらあるわけで、そういうやり方だけでいいのかという動きが一方であります。そういう意味で、多様な支援、仕組みが当然あっていいと思いますし、極端に言えば市場主義的な考え方があっても当然いいと思います。ただ、養父市の中でやっている段階で言えば、合併がそういう初動期の多様な支援のあり方に対してマイナスの方向になっているのではないかという気がするのです。

**発言** マイナスの人がいるのであれば、その人がそのことを話すことに対して、逆にこちらがプラスのことを話してあげればいい。こちらがマイナスの話をしたら、駄目になりますから。

**野崎** 何の話でも、課題解決型の話し合いと、前向きにこういうことができるという可能性だけを取り上げる話し合いの両方がありますので、課題解決型の話し合いがおかしいという話ではありません。ここは両方の話をしているわけで、もちろんこういう若い人の元気も無いと駄目だと思います。



すごい問題提起をしてもらって反論したい方もたくさんいると思うのですが、時間が迫ってきました。今日は結論を出そうという集まりではないので結論を出す必要がありませんが、このままでは帰ってから寝られないという方もおられるかもしれませんので、最後に一言ずつ話していただいて終わりたいと思います。

## 5. まとめ

**梅谷** 今度一人で「NPO 但馬まちづくり研究所」をつくりました。ブログで 60 数本の記事を書いて、読むのしんどいと言われています。とにかくまちづくりがやりたいという気持ちです。合併頑張ってください。

**八木** 合併しても出石の街並み保存を応援していきたいと思います。

**中尾** 合併しても、八鹿の街並みも考えてください。

**太田** 日高町も国分寺を売り出し中です。私たちは駅の表側でやっていますが、今度は裏側の方でそういうようなことができるので、裏も表も無しにコミュニティづくりに協力できることがあればやってみたいと思います。

**綿貫** 今日は、今抱えている問題点を素直に言って、皆さんからもご意見をいただきました。私も合併に悲観的ではありません。前向きに考えて、いい合併にするために頑張っていきたいと思います。

**上坂** この市町合併で、ここはどうなるのかというようなことが非常にたくさんあります。そういう中で、先ほど出石町の応援をしてもらいました。伝建地区指定を、本当は合併までにこぎつけたかったのですが、新しい市長の引き継ぎということで一生懸命やりたいと思います。それと、永楽館という古い芝居小屋を何とかしたいと、同じように引き継ぎでやっています。いろいろな問題を抱えていますが、自分たちのまちは自分たちですということをしっかり言っていきたいと思っています。

**元田** 年上の皆さんに生意気なことを言ってすみませんでした。でも、言うことは言っておかないとこの仕事はできません。プラス思考と言っていますが、実は個人的にはマイナス思考なのです。合併も頑張ってください。

**水田** 合併とまちづくりについて考える上で非常に参考になったと思います。

**文山** 今日は難しいテーマで分からないことばかりだったのですが、まちづくりとか、市町合併に対する意欲だとかは少しは理解できたのではないかと考えています。

**渡海** 僕も分からないところが多々ありましたが、一つだけ言わせていただくと、昭和の合併は僕が生まれる前で全然分からないのです。ですから、僕がおとなになって子どもに、この合併のことを、「昔、豊岡という市は 1 市 5 町だったのだ。」と言った時に、子どもが「それは見れば分かる。」と言えるような、特色を残した合併にしてもらいたいと思います。

**青木** 建築学科ということで、これまでに設計作品をいくつかつくってきました。まちを少しでも活性化するような複合建物になるように自分で計画して建物をつくったのですが、実際のところをあまり把握していなくて、全てが机上の空論のような形で終わってしまいました。今日参加して、合併によるプラス面とマイナス面をいろいろと聞けたので、本当に良かったと思います。

**松原** 合併に関して、必ずしも批判的にならずということを感じています。そのメリット面をこれからどうつくっていくのかは、後まだ時間がかかりそうな気はしますが、探っていく必要があると思いました。

**野崎** 合併には行政組織の合併という側面と、その住民がどうなるかという側面があると思います。行政組織はどうしてもピラミッド型ですから、少し裾野が広がるぐらいの話だと思うのですが、住民にとってはネットワークが広がったように考えると、非常に前向きに思えるのではないかなという気がします。今までは、細かく区切った地域の地域愛や郷土愛を支えに活動してきたのですが、それが広がることで、逆に繋がるのが前向きな話になっていくと考えれば、合併は別に悪いことではないなと思います。逆にそう考えることで、力が沸いてくると考えればいいというのが今日の感想でした。

**小林** 人材の流動化の話がありましたが、本来は前からの知り合いということがあるわけです。今までなら行政区

で区切られていたから NPO とか知り合いという形で繋がっていたのが、言ってみればもう少し広い範囲で行政区も繋がるわけですから、その中で今言われたような話がポテンシャルになるのではないかと思います。それ以外はあまり大して役には立たないし、あってもなくてもそう変わらないという気がします。地域でできることは地域でやり、それでできないことを県がやり、それで国がやるのだから、組織的に対応するという意味では国も県もいらぬということ。ですからその中で、今日出された観光や中心市街地や商業の話はかなり希望と危なさの話がいろいろありましたが、野崎さんも言われた高齢者問題やケアといった地域の中の問題を、地域の人たちが自分たちでどうするのか。防災問題もそうだと思うのですが、そういうところも合併によって自分たちでしなければ仕方が無いということになってくるのだらうと思います。是非そういうところも次にお話させていただいたらと思います。

**野崎(瑠)** 普段仕事をする中で、建築とか社会とかというものを考えるわけですが、女性もいろいろ社会の中で出て行って仕事をしていくというように形が変わってきています。その過程の中で解決できないことがいっぱい出てきているわけですから、そういう合併という大きな問題があるのだと思います。社会の中でいろいろな人が助け合うネットワークをつくっていくということがすごく大事だと思いますので、それがどんどん広がり、いろいろな情報が入ってきて、お互いに共通の助け合う仕組みができていくことが非常に大事なことではないかと思っています。

1 では最後に、小森所長から閉会挨拶も兼ねましてお願いします。

#### 6. 閉会のあいさつ(小森星児:ひょうごボランティアプラザ所長)

今日は本当にありがとうございました。先ほどご紹介いたしました、この4月からひょうごボランティアプラザでは新しいNPOに対する助成メニューを展開します。一つは立ち上げ支援助成で、市町合併であちこちでできる空き庁舎を占有するNPOに対しての支援です。改装費や設備費、あるいは引越し費用を含めて30万円です。からたいしたことはできませんが、できれば複数の団体で空き庁舎、空き店舗などを含んでもいいのですが、基本的には空き庁舎にNPOが入って欲しいということで、若干のお手伝いをさせていただきます。今一つは、チャレンジ助成です。これは、今まで大きな助成を受けたことの無いNPOやNPOのリーダーに、NPOが新しいことに取り組む場合に一気に思い切って百万円の支援をします。ただし公費ですから、百万円をポンと使ってくださいというのも勇気がいるので、中間支援団体、中間支援団体というのはまちづくりをやるNPOを支援しようという神戸まちづくり研究所のような団体ですが、そういうところと組んでもらいます。要するに事業の担保をしてほしいということです。

それ以外にもいろいろな助成制度がありますが、先ほどから話が出ているように、今までのように行政に頼って、行政が出さなければ事業そのものが成り立たないというのはあまりにもおかしな話です。行政自身が貧乏になってお金が出せないという時には、むしろ民間の方が先に打つ。私どもは、まちづくりだけにお金を出す団体ではありません。まちづくり、福祉、国際協力、環境など、そういうことに取り組む市民団体の足腰を強化するために支援する団体です。そういう意味では、必ずしもまちづくりだけに限りませんが、特に但馬のようなところでは、まちづくりに対する新しいニーズがある反面、但馬全体を相手するのに何故市役所がお金を出さないといけないうのかという話になりかねません。そういう時に県民局ももちろんですが、我々のようなところをご利用いただければと思います。またNPOを立ち上げるのであれば、是非私どもの方にもいろいろお話を聞かせていただき、お役に立つことがあるようでしたら、是非そうさせていただきたいと思います。

今日は遅くまでどうもありがとうございました。

この記録は、「兵庫まちづくりプラットフォーム」事務局の特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所が作成しました。